

11・4日比谷野音へ!

2012年9月17日
No.53

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

9・14官邸前行動が大高揚!



9月14日、霞ヶ関一帯を数万人が埋め尽くす!

「野田! 出てこい!」「いますぐ原発をやめろ!」。9月14日金曜日の夕方、首相官邸前の歩道を埋めた人びとがこぶしやボードを突き上げた。原発再稼働と原子力規制委員会人事案に反対する、首都圏反原発連合有志の主催による行動だ。

この日、野田政権はエネルギー・環境会議で新戦略を決定。

「2030年代に原発稼働ゼロを目指す。核燃料再処理は継続する」という内容に、怒りの声がわき起こった。「ふざけたことを言うんじゃない! 2039年は27年後だ!」

この日は、国会前でもコールとアピールが行われ、全国100カ所近くで抗議行動が取り組まれた。

10・19法大包围デモ

10月19日(金) 12:40

法政大学市ヶ谷キャンパス正門前集合

全学連大会の感想(首都圏大学1年)

私は今回が初参加でしたが、非常に貴重で且つ濃密な時間を過ごすことができたと思います。第一に、同じ「学生」という社会身分の人と一緒に議論を深めることができたという点です。私は今まで、労働者の方々とお話したり、労働者の方々の考えを聞いたりという機会はありませんでしたが、学生と持論を交し合うということはありませんでした。この点において、自分と同世代の人たちがどういう意見を持っていて何を言うのかということに非常に興味関心があり、今回参加しました。議論の場では自分の予想以上に、多くの学生同志が素晴らしい革命的な議論を展開し、感動さえ覚えました。たくさんの学生たちが自分と同じ意見を持っているのだ、ということを感じ、感じ、「これは自分も頑張っていかなければならない」と強く感じました。現代まさに学生と労働者が声を上げていくべきだと思います。そういう時代に入っているのです。今の資本主義体制で成り立っている社会が、ブルジョワ国家によって「当たり前だ」と思われている社会。どれだけ努力しても何も実らない社会。こんな腐敗しきった社会を変えることができるのは、学生と労働者の団結の力以外にありません。

学生間での議論を通して、そのことを強く痛感しました。第二に、現在、日本と世界を取り巻いている情勢を再認識できたことです。消費増税、TPP、オスプレイ、原発、公務員制度、憲法改正、領土……。挙げればキリがありません。それだけ、今現在のブルジョワ国家では、国民生活の影響に直結するような重要な問題を、何一つ解決できないということだと思います。今現在、政府・民主党をはじめとする既成政党および大阪・橋下や東京・石原が進めようとしているあらゆる行動を、私たちは絶対に阻止しなければならない。人間の手によって人間の共同性が奪われることなどあってはならない。今現在の社会は、本当の人間社会ではない。本気で本気で革命をやり抜くということが絶対に必要なのです。そのこともしっかりと再確認できたと思います。今後、大会で出会った学生同志と共に、また、労働戦線で戦う労働者の方々と共に、自分もできる限りの力を尽くして、社会を変えるべく行動していきたいと強く思います。

11・4全国労働者総決起集会

新自由主義と闘う労働組合の全国ネットワークを!
JR外注化阻止! 反原発・反失業、野田倒せ!

◆11月4日(日) 正午～

◆東京・日比谷野外音楽堂にて

【主催】全日本建設運輸連帯労働組合・関西地区生コン支部、全国金属機械労働組合・港合同、国鉄千葉動力車労働組合、国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動

http://www.geocities.jp/nov_rally/

※右写真は、5950人が結集した昨年11月6日の全国労働者総決起集会



9・14動労千葉集会以の田中委員長発言

●強制出向の事前通知弾劾！

当局はこの12日から外注化のための強制出向の事前通知を強行しはじめています。いささか今日私は本当に頭に血が上っています。事前通知を出されている仲間たちは91名でそのうち44名が動労千葉の組合員です。事前通知をとめることができなかつたことは動労千葉の本部委員長として本当に組合員に申し訳ないと思っています。

事前通知だけが強行されて何一つ外注化と言ったって進んでいません。たとえば、幕張車両センターで言えば幕張車両センターのそっくり半分を外注化するにもかかわらず庁舎から設備から何からいったいどこが外注会社になってどこが直営会社で業務の詳細な区分はどうなつてどの設備、どの工具が委託契約が結ばれて、いったいどの工具を外注会社が使つて、どれを本体が使つて、何一つ何もかも明らかにしないまま、ただひたすら外注化のための事前通知だけが強行されたんです。幕張は今管理者だらけです。これを強行するために6名の管理者が新たに幕張に配置されました。この6名の管理者ぐるみ外注会社に持って行って、つまり、外注会社が仕事をする外注化するなんていったってまったく嘘っぱちです。管理体制から働く人間までそっくり下請けに移行させるだけの話だけであつて、こんなのは根本的に偽装請負以前の話です。ただひたすら労働者を下請けに突き落とす非正規化するための外注化であつて、労働者にとっては何の利益もない、ただひたすら団結を破壊して労働者を突き落とす攻撃です。こんなことは本当に許すことができない。

●闘いは何一つ終わらない！

僕らはこの外注化攻撃に12年間闘つてきて、今、今日この場でもひとつも負けていないということです。しかも今日はっきりさせたいことは、外注化との闘いは事前通知が強行されようが何しようが、何一つ終わらないということです。仮に当局が10月1日に強行しようが、何一つ終わりません。今回の外注化で何が起きるんですか。現場の組合員が91名強制出向です。だけど、JR側の管理者はまったく減らないで、新たなJRの管理者が16名強制出向になるんです。管理者は16名増やすんですよ。この連中に払う人件費は2億円ですよ。これじゃ何一つ終わらないということです。来年には計画業務が外注化されその次には機動班業務、資材倉庫が外注化され、最終的には新系列の機能保全が外注化され、JRにはまったく何の業務も残らない。そういうところまで外注化をすすめる。すでに当局と東労組は手をむすんで汚い結託体制をもって公然と宣言しています。そうなつたときにはもうJRにはまったく戻れる職場がない今まだ半分業務が残るから彼らは3年たつたら戻れるんだ、うそとペテンでごまかして、組合員を駆り立てようとしています。

しかし、外注化というのは終わりなき攻撃です。いったん許したらとことん突き進むまで終わらない攻撃です。これはNTTの現実、あるいは民間の大手のあらゆる現実をみればはつきりしているはずですよ。

●外注化絶対阻止を！

それと、もうひとつはつきりしていることは、外注化攻撃だけは絶対に許してはならないということです。民営化、外注化、労働者を非正規職に突き落とす攻撃だけはどんなことがあると僕らは絶対に認めてはいけなかつ、闘い続けなければいけなかつ。なぜなら、今労働者がおかれたこの現実を見てください。特に未来ある若い仲間たちがどれだけ未来を奪われて、非正規職に突き落とされて、結婚もできずに貧困に突き落とされて、こんな現実の元で涙をのんでいるんですか。僕らはこの闘いは労働者は誇り高い存在でこんな涙をのまされるために生きているんじゃないということを証明したいからです。だから、外注化攻撃だけはどんなことがあると認めてはいけなかつ。だから僕らは闘い続けます。外注化攻撃は外注化するだ

けで終わらない。強制出向だけでは終わらない。転籍に突き落とし、非正規化させる。

だけど、当局は外注化するまで外注化を始めるまでだけで12年間かかりました。つまり、もうすでに攻撃は半分破産しているということです。じゃあこれを次々と外注化を拡大して非正規職に突き落とすまで、彼らは何年かかるんですか。この社会はあと何年持つんですか。僕らの団結した力が勝たないといけなかつ。

●東労組の裏切りを許さない！

それともうひとつです。この間も何度も何度も繰り返し訴えてきたとおり、この闘いに僕らがかけてきたことは、もちろん敵の攻撃のことはあります。だけど、もっと本当に腹の底からこれだけは変えたいと思つてきたことは、労働者の味方であるはずの労働組合の問題です。労働者の団結をつくるはずの労働組合の問題です。東労組を見てください。今回の外注化は東労組が裏切り妥結をしたから動き出した問題です。千葉支社の団体交渉を見てほしいと思う。二回団体交渉をやつて基本的に終わりですよ。そんなことを組合員がほとんど知らされていない。もう12日から事前通知を強行するために、7日にもう早々と団体交渉を終わつてしまった。これが東労組の現実です。こうやつて労働者が突き落とされていく、その手先になるような労働組合がこの世の中には生きています。

●闘う労働組合を甦らせよう！

動労千葉はわずか300人の小さな組合です。JRは巨大な大企業です。わずか300人だつて、その労働者が本気になって団結して職場から徹底抗戦したら、こういう攻撃は打ち碎けるってことなんです。彼らが望んでいるってことではないんです。なんで不可能でもないことを始めからのんでいるんですか。なんでこんな組合ばかりなのか。僕らのこの闘いの問題提起は、もうここまで来たんだから、僕ら労働者の未来をつかみとるために、闘う労働組合を職場から甦らせよう。そうしたら時代は動き始め、歴史は動き始めるんだ。だつて世の中に怒りの声は満ちているんだから。そういう問題提起が我々の外注化阻止闘争でした。この訴え続けてきたことは、我々は絶対に途中で旗は降ろしません。組合員とともにこの状況がどんなになろうと、絶対反対を貫いて、世の中から非正規職がなくなるまで闘い続ける。今日はそのことを決意する場です。

僕らは絶対にあきらめず、10月1日強行を止めるために全力を尽くして闘いぬく決意です。今日は先のことは言いません。当面この2週間を、この12年間の闘いの全てを尽くして闘いぬくことを組合員に訴えたい。引き続きのご支援も訴えたい。

国鉄分割・民営化で職場を追われた僕らの仲間、国鉄の仲間20万人、自殺に追い込まれた僕らの仲間2000人、国鉄分割・民営化によって非正規に追い込まれていった1500万人のあらゆる産業の労働者、僕らはその怒り、その憤り。毎年毎年14年間も3万人以上が自殺をし続けて、この14年間で50万人が自ら命を捨てたこの悔しさ。全部をぼくらの肩にのつて闘いたい。なぜなら労働者には、どんな産業の壁も、企業の壁も、国の壁もないはずだからです。労働組合は本来そういう存在じゃないですか。外注化阻止闘争にこれからもかけていきたい。

1047名解雇撤回闘争では僕らの仲間が、採用候補者名簿に掲載されていて、それが不当に、不法行為で外され、その不法行為がなければ、僕らの解雇された仲間たちはJR東日本に採用されていたはずであるという判決まで出ました。つまり外注化阻止闘争、解雇撤回闘争で、国鉄分割・民営化以来の25年間に僕らはいま決着をつける新たな闘いに入るんだらうと思つています。そのために団結を固めて闘つていきましょう。そのことを訴えて本部を代表してのあいさつに代えさせていただきます。どうもありがとうございま

